

埼玉奇考論について

「埼玉関連本はものすごくよく売れる」という話を出版社の人から聞いたことがあります。

確かに「翔んで埼玉」のようなディスリ本が爆発的に売れる地域はそうありません。

「埼玉ディスリ」も「埼玉あるある」も個人的にはどれも面白いとは思いますが、基本的に世に出ている埼玉関連本の著者が、いずれも埼玉県民ではないことがずっと気になっていました。

そろそろ、埼玉県出身者が埼玉に対する思いを綴った本を読みたい。
でも探してもなかなか出てこない。

「埼玉大好き!」「僕たちの埼玉!」みたいな気持ちの悪い本ではなく、ここ数十年の埼玉県を冷静に定義しているようなそんな本。埼玉県に対して好き放題言っている、埼玉県民が書いた本。

そんな本があれば、私が徹底的に「それは違う」などと難癖つけてニヤニヤしてやろうと思っていました。

でも探せど探せどない。

なぜ埼玉県には、外からの「ディスリ」と中からの「大好き」しかないのか。

中からの「ディスリ」と外からの「大好き」がない。

好きと嫌いは表裏一体というように、これらには相互作用があるようにも思える。

なら自分で書くしかない。

埼玉県に関しての思いや考えをまとめようとは前々から思っていたのですが、いきなり埼玉県を総括する前に、まず埼玉県を構成している 40 市に、一つ一つ注視してみたい。

例えば「最近の若者は」とよく一括りにしますが、北海道、東京、大阪、沖縄の若者がそれぞれ違うように、埼玉県ほど文化がバラバラな県はそうありません。

市の数は 40 市で日本一位。人口は、東京、神奈川、大阪、愛知に続き五位。

外の人が「埼玉県ってさー」と語っても、秩父と越谷と上尾と加須の常識は全く違います。

なので全 40 市をまず見つめ直さないといけない。

私は埼玉県で生まれ育ち、2013 年より動画「そうだ埼玉」を制作するため自力で埼玉県内を走り回ってきました。全 40 市の市長一人一人に埼玉ポーズの打診をし、現在も「そうだ埼玉.com」でさまざまな市に住むライターたちと日々埼玉県情報の記事を発信しています。

そして、埼玉県というテーマで 4 年間、毎週メルマガを発行してきました。

そういった経緯も踏まえながら、可能な限り客観的に、全 40 市を捉えてみたいと思います。

……本を出版するお金の余裕はないので、私のメルマガから配信します。

書籍化しようという勇気ある出版社がありましたら、ご連絡お待ちしております。

2018 年 1 月吉日 そうだ埼玉.com 編集長 鷲谷政明 (天下茶夜)

<http://soudasaitama.com/information/27797.html>